

記 事

◎第12回理事会(昭.30.4.14)出席者:青木会長,菊池副会長,最上,後藤,星基,片平,篠原の各理事,中川書記長,朝倉,椿箸,堀内の各主任書記。議事:

1) 3月中の行事その他報告, 2) 土木会館建設敷地について金子委員長出席され委員会の経過を説明し理事会の承認を求めた, 3) 後任理事候補者について, 4) 名誉員について, 5) 夏季講習会について, 6) 中部支部長に名古屋水道局長杉戸清氏を選任承認(旧支部長は愛知県土木部長大林勇治氏), 7) 中部支部昭和29年度事業報告及び収支決算報告承認, 8) 日本学会議第5部会員, 青山秀三郎, 矢野勝正の両氏からソ連學術視察団員として派遣されるについて学术交流, 文献交換等に関する希望についての照会に対し, ソ連及び中共に土木工事写真集及び最近の土木工学の趨勢を贈呈することを依頼する, 9) 土木用語常識事典について, 10) Centro de Documentación Científica y Técnica de Mexico から学会誌と交換方申出を承認, 11) 准員のうち論文集希望者に正員と同様の会費で配布方については予約をとること, 12) 文部省大学事務局局長から国際標準化機関(ISO)からの「マイクロコピーの透明生地の寸法」に関する意見を4月30日までに學術情報室宛回報することの照会に対し, 別に意見なし, 13) 日本工学会の次期会長候補推薦及び次期理事学会互選について, 14) 海岸工学委員会委員として下記諸氏を委嘱について,

委員長:本間仁, 委員:中島武, 佐藤清一, 山内一郎, 福岡正巳, 岸力, 太田尾広治, 新妻幸雄, 石井靖九, 鶴田千里, 肥後春生, 石原藤次郎, 速水順一郎, 岩垣雄一, 篠原謹爾, 真鍋恭雄, 田中清, 永井莊七郎, 佐島秀夫, 栗津清藏, 堀川清司, ほかに海洋気象台, 農林省, 国鉄建設部からそれぞれ1名予定, 顧問:鈴木雅次, 島野貞三, 安芸皎一, 渡辺弥作, 委員中から幹事2名をえらぶ, 委員長及び幹事は2年ごとに交代すること。

15) 会員入退会について,

◎各種委員会

1. 編集委員会(昭.30.4.25)最上, 後藤正副委員長, 三上, 大宮, 斎藤, 吉川, 丸安, 久保, 三木, 小松原各委員, 小林元椽, 中川書記長, 徳平編集幹事, 岡本編集部員。協議事項: 1) 会誌および論文集進捗状況報告, 2) 投稿論文および新規受付論文審査委員の決定, 3) 依頼原稿について, 4) 次回講座の件について小林元椽君(建設省建設機械課)より説明, 5) 討議依頼先の決定, 6) 40巻6号(増大号)登載論文を次のとおり予定した。

松尾春雄・大原資生: 水に飽和された土の振動圧

力, 一木保夫・松井司: 寒中コンクリートの電気養生における所要電力について, 米谷栄二: 混合交通流における三車線道路における追越確率について, 池田哲夫: 構造物の完全率と破損の確率, 森吉満助: トランシットにおける十字横線の調整法に対する実験的研究, 本多勇・青木亮: 濃美大橋橋脚工事におけるケーソンの移動匡正について, 成岡昌夫・角谷保: X線によるコンクリートの試験, その他。

2. 第10回会誌抄録委員会(昭.30.4.7)出席者: 林委員長代理, 平嶋, 渡辺(修), 渡辺(隆), 山口, 梅田, 樋口, 中村の各委員, 千秋幹事, 徳平編集幹事, 岡本編集部員。1) 40巻5号登載用として3編を予定(割当4ページ), 2) 繰越16編, 新規6編について協議した。

3. 学会誌編集小委員会(昭.30.4.7)出席者: 後藤副委員長, 長浜, 林各担当委員, 徳平編集幹事, 岡本編集部員。協議事項: 40巻5号会誌編集について最終的打合せを行つた(64ページ)。

4. 第37回プレストレストコンクリート委員会(昭.30.4.1)吉田委員長, 沼田, 国分, 山田, 伊東, 片平(代宮崎), 川崎(代片山), 宮崎, 海上(代白木), 齋島, 渡辺(代木村), 山崎, 村田, 樋口, 菅原, 深谷, 田村, 川口の各委員, 中川書記長。議事: 1) 50~53条, 55条の改正原案及び57~62条審議, 今回をもつて第二読会終了, 2) 第三読会までに改正原案を各委員にあらかじめ送付し研究するよう手配すること。第38回同委員会(昭.30.4.14~17日, 湯河原山海荘において)出席者: 吉田委員長, 伊東, 猪股, 海上(代白木), 片平(代宮崎), 川口, 木村(代木村), 国分, 近藤, 菅原, 田村, 田原, 友永, 齋島, 樋口, 深谷, 三浦, 宮崎, 村田, 山崎, 山田, 渡辺の各委員, 浜本, 松本, 平栗の各助手, 中川書記長, 堀内書記。議事: 1) 第三読会で審議の上, 訂正原案を作製第四読会を引続き開き全文を完成した, 2) 出版の場合はB6版とすること。

5. 第13回鋼鉄道橋設計示方書委員会(昭.30.4.5)出席者: 田中委員長, 青木, 福田, 沼田, 成瀬, 田原(代沓掛), 田中(五), 友永, 多田, 平井, 奥村の各委員, 西村, 菊池, 田島, 大宮, 安浪, 五乙女, 大谷の各幹事, 川崎連絡員。議事: 示方書条文の再検討。

6. 第5回土木会館建設委員会(昭.30.4.5)出席者: 青木会長, 金子委員長, 佐藤, 塩沢, 柴橋, 立花, 町田, 渡辺の各委員, 中川書記長, 椿箸主任。議事:

1) 金子委員長から経過報告, 渡辺, 塩沢両委員から具体的説明, 2) 四谷駅付近国鉄用地を払下げられることを前提として一時借用する案に全員賛成, 次のような意見書を理事会に提出し, 委員長が説明すること。

土木会館建設に関する意見書

本委員会は昭和 29 年 3 月 23 日第 1 回委員会を開催して以来まづ建設用地を獲得することを先決問題とし, 各委員から候補地の物色推薦により慎重協議の結果, 別紙図面の四谷駅付近の日本国有鉄道用地約 800 坪を買収する前提の下に一時使用許可を得たる後, 土木学会として必要な最小面積の建物を建築の上, 時期を見て将来計画の土木会館を建設するを適当と認める。

3) この意見書を提出して本委員会は解散するとの議もあつたが, この土地の借用完了まで継続するよう青木会長から要望があり一同了承, 4) 本建築の場合は種々の問題があるから, 時期を見て委員会の構成を別途考慮して貰いたいとの希望があつた。5) 本建築の場合の構想について種々の意見があつた。

7. 第 5 回海難防止港湾施設委員会 (昭.30.4.26)
出席者: 鈴木委員長, 岡部, 嶋野, 黒田, 菊池の各委員, 久保, 佐藤両幹事, 中川書記長。議事: 1) 鈴木委員長から日本学術会議海難防止委員会の経過報告の後, 前回報告書の要約したものを求められたので本委員会で審議することとし佐藤幹事原案を朗読, 2) 審議の結果函館港に関する項目は追書でなく別項目を立て表現方を訂正する。

◎その他

1. 日本学術会議事務総長から第 5 回国際大ダム会議に当学会から推薦した東大教授国分正胤氏を日本学術代表として派遣することに決定した旨通知に接した。
2. 朝日科学奨励金研究計画候補として平井敦氏の吊橋の耐風安定性に関する研究を推薦した。
3. 第 11 回年次学術講演会講演者数

総会場 (4), 第 1 会場 (23), 第 2 会場 (24), 第 3 会場 (23), 第 4 会場 (22), 第 5 会場 (23), 第 6 会場 (23), 第 7 会場 (24), 第 8 会場 (21) 合計 187

4. 日本学術会議では第 19 回総会を 4 月 26~28 日公開で開催した。

5. 関東地区常議員半数改選有志打合会 (昭. 30. 4. 19) 出席者: 江里口, 片平, 坂本 (代), 友永, 福田, 八十島の諸氏, 中川書記長, 榊箸主任。議事: 関東地区常議員 19 名中約半数の 9 名を改選するについて候補者を推薦することとした。

6. 第 5 回応用力学連合講演会運営委員会 (昭.30.4.26) 出席者: 本間委員長, 狩野, 近藤, 星埜, 久保, 内田, 後藤の各委員, 榊箸, 堀内主任書記。議事: 1) 総合講演について, 2) 映画について, 3) 次回を 6 月上旬としプログラム編成のこと。

支部だより

1. 東北支部 第 1 回役員会 (昭.30.4.11) 出席者: 宮本支部長以下各役員。議事: 1) 昭和 29 年度事業経過, 予算決算及び 30 年度事業計画, 予算報告, 2) 昭和 30 年度支部役員改選について, 3) 支部長より常議員会報告, 4) 支部総会の開催について, なお当支部では各役員相互の一層の親睦をはかるため昨年 8 月から定例午さん会 (毎月第 2 週の火曜日) を開催しているが, 本年 3 月から各職場における工事等の認識を深めるため説明会を行い, 第 1 回は国鉄東北副支配人古賀登商議員より「青函トンネルの計画」について説明があり, 今回の役員会は午さん会を兼ねたので東北地方建設局鳴子工事事務所長藤樫博暁氏より「鳴子ダム工事について」説明があつた。

2. 関西支部 講演と映画の会 (昭.30.4.20, 毎日新聞社講堂) 参加者: 316 名, 講演: 大阪の 20 年後を語る (大阪市計画部長高津俊久), 20 年後の建築 (大阪市立大学教授滝沢真弓), 映画: 近代アメリカ文化施設記録 (西松建設 K K 提供), ニュース (毎日新聞社提供), 20 年後の東京 (建設省提供) クイビィセフ発電所の建設 (日ソ親善協会提供)。

昭和 30 年 4 月分入退会報告 (昭.30.4.1~4.30)

1. 入会 71 名 (特 3 級 2, 正 17, 准 27, 学生 25) 2. 退会 なし 3. 転格 なし

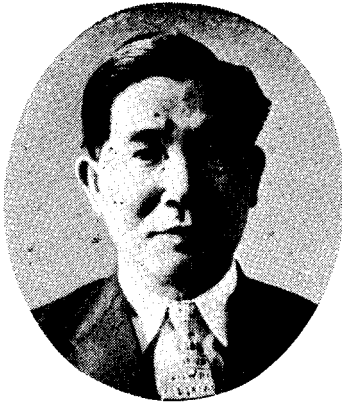
会員現在数 (昭.30.4.30 現在)

名誉員	賛助員	特別員	1 級	2 級	3 級	正員	准員	学生員	合計	増加数
20	16		32	77	151	5 388	6 547	1 415	13 646	71

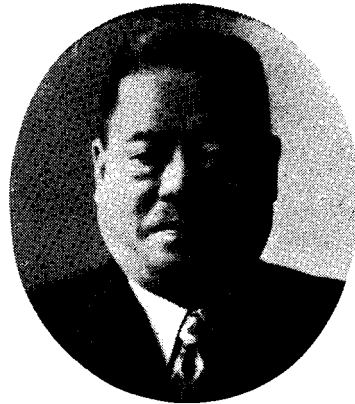
昭和 30 年 5 月 10 日印刷	土木学会誌 第 40 卷 第 5 号	定価 100 円
昭和 30 年 5 月 15 日発行		
編集兼発行者	東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地	中川一美
印刷者	東京都港区赤坂溜池 5 番地	大沼正吉
印刷所	東京都港区赤坂溜池 5 番地	株式会社技報堂
東京中央郵便局区内 千代田区大手町 2 丁目 4 番地 電話 (20) 3945-4078		
発行所 社団法人 土木学会 振替東京 16828 番		



菊池 明



藤井松太郎



種谷 寧

昭和30年土木学会役員氏名

会 長	菊 池	明 (新任)	建設省, 建設技監
副 会 長	藤 井 松 太 郎	(留任)	日本国有鉄道理事, 技師長
同 事	種 谷	実 (新任)	日本国土開発株式会社取締役副社長
理 事	飯 田 房 太 郎	(留任)	株式会社間組取締役営業部長
同	上 野 省 二	(同)	運輸省港湾局機材課長
同	江 里 口 正 夫	(同)	運輸省鉄道監督局民営鉄道部土木課長
同	河 北 正 治	(新任)	建設省道路局国道課専門官
同	後 藤 正 司	(留任)	早稲田大学助教授, 理工学部
同	柴 橋 種 造	(新任)	日本国有鉄道施設局管理課長
同	畠 山 正	(同)	通商産業省公益事業局水力課長
同	工 学 博 士 平 井 敦	(同)	東京大学教授, 工学部
同	工 学 博 士 星 埜 和	(留任)	東京大学教授, 生産技術研究所
同	山 本 三 郎	(新任)	建設省河川局治水課長

就任にあたって

会長 菊 池 明

会員諸賢の御推挙によつて、本会会長の重責を担うことになりました。身にあまる光榮と存ずる次第であります。歴代会長の御名前を並べて、各代の学会の歩みの跡を思いますとき、私ごときが果してその任に堪え、本会の隆盛に寄与致すことができるかと、背に冷汗をおぼえます。

過去2年間副会長の席をけがしておりましたので、その間の諸々の事務を通して本会を見ましたが、戦前にくらべて会務もかなり複雑多岐になつております。土木工学、土木技術各分野はいよいよ細分科し、おのおのその深さを増し、その昔工学会から各学協会が分派したように、さらに土木学会から各種の学協会が生まれ出る時代がくるのではないかとさえ想われます。しかしできるならば、大きくまとまつた中で分科し、各分科において盛んな調査研究活動ができるような在り方が望ましいと思います。勢い他の理工学会との連繫を密にし、また、他の学協会員のためにも本学会を開放するところまで発展させなければならぬであります。例えば、委員会・研究会の委員に土木学会員以外からもどしどし参加する道をあけるなどの措置が講ぜられるべきではないでしょうか。これに付随しておこつてくるもう一つの問題は経費の問題です。現在どの学協会もこれに悩んでいるでありましようが、真に緊要な研究課題に対しては必要な経費は出さなければならないはずです。皆様の御協力を得て何とかわが学界の発展のために力を致さなければならないと思います。

今一つ学会の在り方について、皆様から強く言われることは、一言でいえば学会の大衆化ということですが、これはむづかしい問題です。学会の象牙塔的な存在は貴いものでありますが、それ自体活動力を失うに到りはしないか。わが学会の高い理想のためには、『しょうがない会費だけは出そう』という犠牲的もしくは御義理的な精神にのみ頼つては、学会は存在し得ない時代が来わしないか。もうその時代が来ていやしないか。これについてよく聞く話は、あの学会誌は云々……です。しかしこれはいかがでしようか。私は会誌の大衆化は望むべきでないと思います。これは対内的にも、特に対外的にも、必ずあの程度もしくはあれ以上のものがあつてしかるべきだと信じます。学会誌の発行はもちろん学会の重要な事業であります、あくまでも事業の部分であります。私は学会の活動、事業の面において大衆化を図ることこそ学会の今後の発展の道ではないかと思ひます。

就任にあつて、言い過ぎたかも知れませんが、ただ皆様の御協力を得て一年の重責を全う致したい一念からであります。諸先輩の御叱言、若き学兄の苦言も忌憚なく御寄せ載せ、より大いなる学会の発展を期したいと念願致す次第でございます。
